【大行（たいこう）は細謹（さいきん）を顧（かえり）みず】

大分業を成そうと志す者は、小さな慎しみたと気にしないものだという意味の言葉で、余りちっぽけな事にこだわっていると、大事に失敗することを戒しめた諺です。

史記の中でも特に有名な“鴻門の会”で、樊噲が高祖にこの諺を引用して、項羽にあいさつなどせず、失礼して速く逃げることを奨めました。

項羽の謀将、范増は、鴻門の会こそ高祖を殺す絶好の機会であると強く進言していましたから、帰るあいさつをしていたら恐らく殺されて、天下は項羽のものとなっていたでしょう。

さて、細という字は、糸と田で作られていますが、この“田”は“田畑”の田と同じ形をしていますが、古い形は“⊗”で、頭の中味を去わしたものです。“脳”の右下や“思”の上の部分と同じものです。

“⊗”の音は、“si”です。si は、signal の時は、“シ”グナルですが、sign の時は、“サイ”ンと発音するように、シとサイと二通りの発音があります。思はシ、細はサイと発音しますが、それは“田”が表わしているのです。細は、田がサイの発音を示し、糸が“ほそい”という意味を示していて、こういう漢字を形声字と言います。

謹の は、黄と土の合字で、黄河の上流にあって黄河を常に黄色く染めている黄土を表わした字です。黄土は粒子が極めて微細ですので、“細かい”とか“微小”の意味を表わします。

従って、“謹”は、“言葉が極めて少ない”もしくは“きめ細かな言葉使い”という意味を表わしていることが解ると思います。言葉を“つつしむ”ことです。“慎”は“心をつつしむ”ことです。二つの字を合せると“謹慎”という言葉になります。

“僅”は、“人が少ない”という意味の字ですが、今は人に限らず“少ない”“わずか”という意味に使われています。“僅少”という熟語があります。

“饉”は“食べ物が少ない”という意味の字ですから、作物の出来が悪くて食糧が不足する状態を表わした字です。同じ意味を表わした“饑”とで“饑饉”という熟語が作られています。

“勤”は、“きめ細かに心を働かして力（つと）める”という意味の字です。“力”は努力の力で“つとめる”という意味に使われる字です。勤は、勤労、勤勉、精勤、などの熟語に使われます。

江戸時代、大名が一年おきに江戸に出て将軍に謁見するのを“参覲交代”と言います。この“覲”は、勤務として天子や将軍に“お目見え”する、という意味です。